

[特集一第 12 回マレーシア総選挙]

クランタン州から見るマレーシア総選挙結果の一考察
—PAS 圧勝の影に隠れた人々—

仲橋 源太 (広島市立大学大学院)

クランタン州の州都コタバルのメイン道路を興奮した若者達の車、バイクが埋め尽した。クラクションを絶え間なく鳴らしながら、体を乗り出し PAS¹ (汎マレーシア・イスラーム党) の旗を高々と掲げ「アッラーフアクバル (アッラーは偉大なり)」と叫び喜びをあらわにさせた。沿道でその勇姿を見ながら写真を撮っている者、護送車の様なトラックを何台も出動させその動向を見守る警察官達までおり、辺りは騒然とした空気に包まれた。

これは総選挙の結果が出た深夜、PAS の大勝利に酔いしれた若者達によって行われた一場面である。クランタン州では州議会定数 45 議席中 38 議席(84%)、連邦レベルでも 14 議席中 9 議席(64%)を PAS がとり、PAS の大勝利に終わった。選挙前の PAS と UMNO(統一マレー人国民組織)との州議会の議席差はわずか 1 であった。クランタン州はアブドラ首相、ナジブ副首相が頻繁に訪れ、「新しいクランタン・発展したクランタン」を合言葉に経済発展を約束していた州であった。UMNO は 18 年間の PAS の統治にピリオドを打つために今回最も力を入れたにも関わらず何故 UMNO の惨敗に終わったのか。

その一方、18 年間 PAS の統治の下にあるクランタン州は PAS の牙城であるが、何故 PAS が長期政権を築けているか、という事についてはほとんど分析されていない。「メッカのベランダ」と言われる程イスラーム色の強いクランタン州の特殊性を理解するには、単なる選挙結果よりもっと草の根的な活動に注目する必要もあるのでは無いか。本稿では、①クランタン州における政治の歴史的背景、②今回の PAS の勝利要因、③ある PAS 支持者の気持ちの変遷、の 3 点から今回のクランタン州における総選挙の結果を分析する事を目的とする。

クランタン州における政治の歴史的背景

今回の PAS の大勝利はクランタン州の政治史の中では決して珍しいものではない。1959 年には州議会定数 30 議席中 28 議席(93%)、1999 年には 43 議席中 41 議席(95%)を PAS がとっているのだ。大切な事は、クランタン州ではマレーシアの民主主義のシステムの中で目まぐるしく政権が変わっているという事だろう。1955 年から 1959 年までは UMNO、1959 年から 1978 年までは PAS(ただし 1973 年から 1977 年までは PAS が連立与党のメンバーに加わった)、1978 年から 1990 年までは UMNO、1990 年から現在までは PAS が統治しているという頻繁に政権が変わっている州なのだ。

イスラームは日常生活から政治まで全てを規定するものであり、よりイスラーム的であ

¹ PAS は元々、PMIP(マレー全土イスラーム連盟)であり、1971 年に Parti Islam(イスラーム党)とするが、政府から公認が得られず現在の PAS へと名称を変更した。本稿では一貫して PAS の名称を用いる。

る事を目指す PAS は一貫して UMNO の世俗主義に反対しているが、元々はマレー民族主義に重きを置いていた政党である。そして 1969 年の人種暴動以降、マレー人達は国家の危機を乗り越えるために協力する必要を感じ、PAS は与党連合の中に加わった。しかしながら世俗主義に妥協したとして批判され、1978 年の総選挙で大幅に議席を減らす。

1970 年代からイスラーム復興運動が起こり、PAS の中ではウラマーと言われるイスラームの学者がリーダーとなった。そして彼らに多くの権限が与えられるようになったが、これは 元々のマレー民族主義政党から、よりイスラームに重点を置いた政党への変化である。1990 年、PAS は再び州政権をとるが、この躍進は元財務大臣でありクランタン州のスルタンの親戚にあたるトゥンク・ラザリ率いる S46(46 年精神党)と APU(ウンマ団結運動)を組織した結果である。S46 は華人系最大野党の DAP(民主行動党)と協力していたので、間接的ではあるが初めて PAS と DAP が協力することになった。この時 PAS の精神的指導者ニック・アジズが精神面で、トゥンク・ラザリが経済面でリーダーシップをとり、二人のバランスが野党の勝利を導いた。その後、PAS はギャンブルの禁止やスーパーのレジを男女別に分けるなどのイスラーム政策を推し進め、S46 のメンバーは PAS とのイデオロギーの違いなどから 1996 年に UMNO に再合流する。

1999 年、PAS は DAP、PKR(人民正義党)などと野党連合を組織し、州議会定数 43 議席中 41 議席を得るなど過去最大の大勝利をする。これは PAS が DAP と直接協力するために、イスラーム色を弱めた結果可能となった。しかしながら、2001 年 9 月 11 日のアメリカでの同時多発テロ事件後の反イスラーム主義の世論の中で、PAS もイスラームの過激な組織と同一視された。2004 年の総選挙では就任したばかりのアブドラ首相の穏健なムスリムというイメージの力もあり、PAS は大幅に議席数を減らし、45 議席中 24 議席(57%)を得てクランタン州の政権を維持するのがやっとであった。

この様にクランタン州の政治史を概観すると、PAS は UMNO の世俗主義を批判しながらも、民族やイデオロギーが異なる野党と協力し、クランタン州だけではなく、中央政権を狙ってきた事が分かる。今回 PAS がクランタン州のみならずケダ州でも第一党となるなど大躍進を見せたのは、アヌワール・イブラーヒム率いる PKR が PAS と DAP との架け橋の役割を果たした事が大きかったと言える。

PAS の勝利要因

まず今回の PAS の勝因の 1 つには、現在のクランタン州首相ニック・アジズを使ったイメージ戦略が成功したからだと言える。選挙用のポスターには彼の祈っている写真が使われた。投票日の前日には、コタバルのスタジアムでニック・アジズ率いる必勝祈願のための特別な祈りが行われたが朝 4 時という早朝にも関わらず数万人の信者を集めた。ニック・アジズは、トゥアン・グルという一般的にポンドック(伝統的イスラーム寄宿学校)の中で最も偉い先生に付けられる称号で呼ばれるイスラームの学者である。彼は PAS の精神的指導者であり、彼自身トレンガヌ州のポンドックで教育を受けた経歴を持つ。一方、UMNO は今回の総選挙で勝ったら、ニック・アジズに代わり、アメリカで経済を学び博士になった副財務大臣アワン・アデをクランタン州首相にすると約束していた。それには連邦政府との繋が

りを強調して経済的發展を実現させる、とアピールする戦略があった。

しかしながら今回の総選挙でPASが圧勝したのはUMNOによる経済發展の約束が、UMNOのリーダー達の汚職や世俗主義、倫理の乱れなどと重なって捉えられた事が原因であろう。その結果、イスラームの学者でありクリーンなイメージがあるニック・アジズに票が流れたためだと思われる。

またクランタン州に多く存在するポンドックもPASの勝利に貢献したと言える。クランタン州にはポンドックをまとめる機関があり、その下に現在約13のポンドックが存在する。これらの中には今回のPASの勝利の立役者となったイスラームの先生や生徒達がいる。今回の総選挙で連続3回目の当選を果たした州議会議員ウスターズ・バイハキはその一例と言えるだろう。ウスターズとは、一般的にイスラームの学識を積み、周りの人々から先生として尊敬を集める人に名付けられる。彼はポンドックAの創立者の孫であり、有名なイスラーム一家に生まれたため、幼少の頃からイスラームを学ぶ機会に恵まれた。

1954年にできたポンドックAは、そこに住む生徒、先生、高齢者など全て入れると約1000人のマレーシアで最大規模を誇るポンドックである。財源は基本的に周辺住民などからの寄付で賄っているため授業料はほとんど無料である。そこでは世俗的教科は教えられておらず、日夜共同生活をしながら伝統的な方法でイスラームを学ぶ。

バイハキの父親はこのポンドックAで幼少の頃から勉学を始め、ポンドックA創立者の娘と結婚し、家族で定住するようになる。バイハキはここで生まれ育ち、やがてポンドックAの運営に加わるようになった。そしてヨルダン大学に留学した時には現地にいるクランタン州出身学生の中でリーダーとなり、これが彼にとって政治家となるステップとなった。

ポンドックAの存在する選挙区選出の州議会議員が他界した時、ポンドックAの住民とクランタン州のPASのリーダー達はバイハキの父親に立候補するように頼んだが、彼はその申し出を断ったという。その後、息子であるバイハキの名前が挙がり、彼は当時26歳という若さにも関わらずイスラームとPASのためにこの申し出を受けた。彼がPASからの立候補者になる事はニック・アジズによって了承され当選し、その若さにも関わらずPAS青年部のスポークスマン長を務めた。彼は筆者とのインタビューの中で、クランタン州のPASの強さの秘密はポンドックが正しいイスラームの知識を提供していて、そこで学んだ学生が正しいイスラームの教えを実践するPASを支持するからだと言った。その生徒がまた別の場所でポンドックを開き、先生になるという具合に、ポンドックは廃れる事が無いと言う。

1931年にできた生徒数約400人のポンドックBで学んだ、ウスターズ・ムダ（若いウスターズ）と言われる20歳前後の若者もPASの勝利の立役者となった。チュラマーと言われる説法が非常に上手く、その中で現代の社会問題の解決をイスラームに求め、クランタン州の人々の間で人気が出ている様だ。今、彼のチュラマーを録画したVCDなどがニック・アジズのものに凌ぐ程人気が出ている。総選挙直前に行われたニック・アジズを含む大物が演説するチュラマーでも演説し、多くの聴衆を沸かせていた。

またポンドックBでは、総選挙前にはUMNOの政治家が世俗的である事を非難するピラが何者かによって配られていた。これはUMNOの政治家に対する嫌

悪の感情を持たせるのに一役買っている様であった。それに反応する様に生徒達は PAS のポスター貼りや政治家の応援に行くなどの活動に積極的に関わっていた。

ある PAS 支持者の気持ちの変遷

一方、ポンドックの人達とは全く違う考え方をする人もいる。筆者が6年前から観察しているタフィースと言われるコーランを暗記させる事を目的としている私立のイスラーム学校の経営者である。ここでは先に示したポンドックと違い英語などの世俗的な教科も教えられている。そこで校長先生とも言える 50 歳の通称アヤミーは、イギリスの大学でエンジニアになった世俗的知識人であり、エジプトで歯科医になった奥さんと共に、1993 年この学校を開校した。最初の生徒は 10 人程であったが、翌年には 45 人、2000 年に入り 250 人にまで増加するなど急激な発展を見せた。また中国本土からもムスリムの中国人を呼び無料で教育させるなど、国際的なイスラーム学校としてもこの地域で名が知られている。

アヤミーは自他ともに認める宗教家でもある。5 人いる子供の内、全員を自分の学校で勉強させ、3 人はハーフィズと言われるコーランを全て暗誦している者になり、その内の 1 人はクランタン州でのコーラン・コンテストで 1 等を取るほどであった。そして全員にエジプト、もしくはヨルダンというアラブ諸国でイスラーム並びにアラビア語を勉強させているのである。なにより面白いのはアヤミーの気持ちの変遷である。初めてこの学校を訪れた 2002 年にはアヤミーと PAS との強い関係を見る事が出来た。それはアヤミーとニック・アジズとの関係がとても密接であったからである。例えば、ニック・アジズがアヤミーの娘の結婚式に参加していたり、アヤミーの家族はしばしばニック・アジズの講演のビデオを見ていたり、ニック・アジズの自宅横にあるモスクまで生徒をバスで連れて行き、彼の講演を聴いていた。ここにアヤミーと PAS との強い関係を見る事が出来たのである。

しかし今は状況が全く変わっている。生徒はわずか 10 名程しかおらず、アヤミーはすっかり政治に関心を失っていた。この背景にはいくつかの原因があると思われる。まずは授業料が高く、1 月 600RM と他のタフィースに比べても倍の値段である。また州政府である PAS が多くのタフィースを建設したために競争が激しくなり、生徒を獲得出来なくなったようだ。

「PAS が良かったのは 1990 年からの最初の 5 年だけ。今はお金だけを考え華人にばかり仕事を与えて、ムスリム同胞のマレー人には与えない。」と不満をもらす。これは 1990 年以降、PAS がイスラーム政策を推し進めたが、連邦レベルでの政権を狙うにあたり、華人のサポートが必要になった事と関係がありそうである。しかし、何よりアヤミーがエンジニアで、建築関係のビジネスをしている、という事が大きいようだ。そして、彼はビジネスチャンスを得るために UMNO 主催の、金融副大臣アワン・アデなどが出席するクランタン州のマレー人のための経済交流会などに出かけるのである。

アヤミーは PAS を支持しないだけで、反イスラーム的だとみなされるクランタン州の状況を嘆き、結局はポンドックの様なムスリムのコミュニティーの存在が大切だと語る²。そ

² アヤミーの学校では、イスラーム以外にも世俗的教科を教える事などから、先に示したポンドックとは違うが、大勢でイスラームを学びながら暮らすコミュニティーであるとい

のシンプルで自立した生活こそムスリムの目指すべきモデルだと言う。彼は、その宗教熱心な一面と、有能なビジネスマンとしての手腕を持っている事から、家族を含む多くの人々から尊敬を得ており、社会的にも影響力が強いようだ。

これまで①クランタン州における政治の歴史的背景、②今回の PAS の勝利要因、③ある PAS 支持者の気持ちの変遷、の 3 点を見てきたが、これらからクランタン州の人々はこれまで多様な選択をしてきた事が分かった。しかしながら、これだけのデータでは今回の総選挙の結果を十分に分析する事は難しいであろう。今後、より多くの人々に話を聞き、彼らの目線に立って調査を続けていく事が大切であると気付かされた。小選挙区制の下で掻き消され勝ちな地元の人々の声に耳を傾ける事こそ地域研究者に出来る事ではないだろうか。

民主主義という西欧からもたらされた価値観に違和感を持ちつつも、その中で戦わざるをえない彼らの複雑な心理を理解しなければならない。その中で、クランタン州の人々は自分たちの伝統にその答えを探しているようだ。その伝統の一つと言えるポンドックの重要性はこれからも変わらないと思われる。

う理由から自身の学校をポンドックと呼ぶ。この様に考える人は他にも大勢いる。